

「顧客とのすり合わせで最適な加工方法を作り上げていく」。山田マシントールの山田雅英社長は、強アルカリイオン水を活用した加工システム「アルクル」の販売方針をこう指摘する。アルクルは水素イオン濃度（pH）12・5の強アルカリイオン水に潤滑性を高める添加剤を加えて切削加工などの加工液として使用する。



社長 山田 雅英氏

山田マシントール

■ 強アルカリイオン水を活用した加工システム

「最初は取り扱いが難しいが使いこなせば革新的な効果を発揮する」。山田社長は従来の加工液管理とは別の手法が求められるアルクルの導入には、顧客の協力や現場力が欠かせないと指摘する。アルクルの仕組みは水道水などから日伸精機（東京都墨田区）の強アルカリイオン水生成装置でアルカリイオン水を製造。日本フルードシステム

（兵庫県西宮市）の添加剤などを混ぜ合わせて加工液として使う。実際は切削や研削、鉄、ステンレスなど加工内容や素材ごとに添加剤の種類、濃度、加工条件などを変える必要がある。例えば潤滑性より洗浄性を重視した研削加工では強アルカリイオン水のみで加工して添加剤を削減するなど、加工法を作り込むことでアルクルの導入効果を高められる。

山田マシントールでは営業担当を中心に毎週勉強会を実施。そのうち隔週で加



顧客と新加工法に挑戦

工技術などが専門の元大学教授を招き、専門知識を深めている。一方、アルクルはpH管理など一定の条件下で使用しなければ効果が下がるため、装置管理も重要になる。自らマニュアルを作成して日々徹底するなど現場力が必要で、健康管



顧客とともに新たな可能性を追求

理のための運動の継続と同等のように「目標の明確化と強い意志が求められる」（山田社長）と指摘する。「顧客の要求を工具メーカー」（西沢亮）

カーに伝え、社会に好循環を生み出す」。山田社長の父で機械工具商社を立ち上げた創業者の山田登羅敏前会長は同社の存在意義をこの言葉に込めたという。実際に工具メーカーと同社の間に卸業者を挟むと「顧客の理念が共有できない」とし、メーカーと直接取引する「直需」を志向。現在も取引の大半は直需が占め、「技術を深掘りして顧客の要求に応える姿勢は変わらない」（山田社長）と力を込める。

使いこなせば革新的効果

【企業概要】1947年、機械工具商社として創業。60年に埼玉県に自動盤の生産拠点を設立。68年に自動車の車体などに製造番号などを刻印するマーキング装置を自社生産し、第1号機をトヨタ自動車に納入。79年に刻印機の輸出を始め、08年にタイに現地法人を設立した。現在は自社製品の開発製造と特色ある輸入工具の販売を手がける。山田社長は円安基調が続いても、製造業の地産地消の流れは変わらないと指摘。工程短縮やコスト削減により輸出競争力を高め、「国内製造業の活性化に貢献したい」と意気込む。